

地域やグループでの研修会・勉強会にぜひお声をおかけください！！

「こころの握手で感動の輪を広げよう！」を合言葉に、地域でワークショップ講座を開催しています。



地域かかわり隊がワークショップを行う前に必ず参加者の皆さまにお願いすることがある。それは…

1 年齢 2 性別 3 地位
の三つを忘れて意見を出し合うということである。これを地域かかわり隊は「**三忘の精神**」と呼んでいる。他に、時間を守る、人の言い分を自分のものとして聴く（相手の気持ちになって聴く）、自分で判断して行動する等も併せてワークショップでのお約束としてお願いしている。

◆地域かかわり隊の活動目的

→人権の視点を取り入れた地域活動の普及！

そのために、

『生き生きとした』

『楽しく』

『将来につながる』

学習活動を支援するをモットーに頑張っています。

メンバー紹介（順不同、敬省略）

★加藤 彰三
★出町 明美
★西田 厚子
★東 啓子

★母坪 みち代
★佐々木 敏子
★蓮 井 敦
★平 野 宏

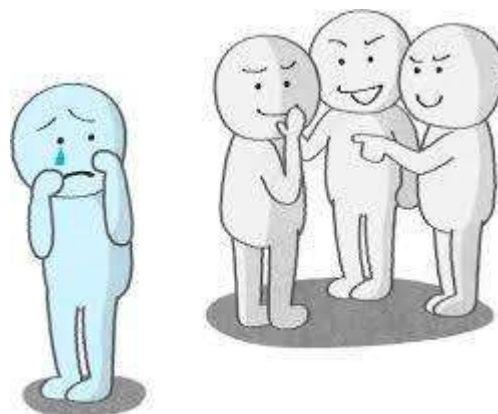
「地域かかわり隊」メンバー募集中！

人権に関するワークショップに関心がある方、事務局（生涯学習課内 ☎528-2635）までご連絡ください。

新型コロナウイルス 感染拡大からの問いかけ

新聞やテレビ等で報じられている新型コロナウイルス関連の差別について、「何て酷い人がいるんだろ」と怒りや不快感を感じる。特に自分自身も感染するかも知れないという危険を顧みず、懸命に働いている医療従事者に対しての心ない差別

は許されるものではない。しかし、もし自分が高齢者であったり持病を持っていて、近しい他人が新型コロナウイルスに感染したら、昨日までと同じ自分ではないのか。その人の人権を守れる言動がとれるか、自身自身に問いかけてみたい。



地域かかわり隊のワークショップ 大盛り上がり！ 富士見学区「人権を考える大津市民のつどい」分科会



動物のジェスチャーをしているアイスブレイクでの様子

令和元年11月2日(土)に開催された富士見学区「人権を考える大津市民のつどい」分科会で、「地域かかわり隊」がワークショップを実施した。テーマは、「ともに暮らす社会づくり ～日常生活における、無意識の偏見、無意識の思い込み～」であった。先ず初めに、ワーク

ショップでのお約束を説明し、その後、ジェスチャーだけで何の動物かを参加者に伝え、同じ動物同士で集まるアイスブレイク※1を行った。違う動物が多かったグループは、鳴き声で「ふるさと」を歌うこととなった。会場の雰囲気はなごやかになったところで、ワークショップが行われた。

「表彰式にカジュアルな格好で出席できるか？」という質問に対して「どちらかと言えばできない」「どちらかと言えばできる」「どちらかと言えない」「できない」に分かれ、グループで意見を出し合った。また、「出掛けようとした時に『そんな恰好していいの？』と家族から言われたことがあるか？その時の恰好



ワークショップで意見を出し合っている様子

は？その時の状況とは？その理由とは？」という質問についても話し合った。参加者からのアンケートでは、「様々な人の色々な意見が聴けて、自分が今まで気づいていなかったことに気づくことができた。学びの場となった。」「暖かい雰囲気、思いを話しやすい」「等というご意見を頂いた。

「地域かかわり隊」のワークショップとは …

例えば、地域の行事（地蔵盆や運動会やお祭り）は必要か … というテーマに対し
必要 or まあまあ必要 or あまり必要ではない or 必要ではない に分かれて発言します。



必要派

コミュニケーションを図る絶好のチャンスだから … 絶対必要だ。

不必要派



毎日仕事で忙しいし、ましてや役員なんかにあたりたら大変だし … 必要ないと思うけど。

どちらかと言えば必要派

役員にあたるのは勘弁して欲しいけど、行事に参加すると、みんなが話しかけてきてくれて楽しいので、なくなってしまうのは寂しいかなあ。



どちらかと言えば不必要派



最近体のあちこち痛いし … 出来れば参加したくないけど、近所づきあいがあるし … 行事が減ってくれれば良いけど。

互いの発言や立場を理解し認め合いながら、自分たちの身近な課題について考えることが大切です。そのためのお手伝いをさせてください！！

※1 アイスブレイクとは…

ワークショップをスムーズに行うため、人と人のわだかまりを解いたり、話し合うきっかけをつくったりするためのちょっとしたゲームやクイズ、運動等のこと。